

■石川雲蝶 幕末・維新期に、越後国で活動した彫工。色鮮やかで迫力ある木彫などを遺し、“越後のミケランジェロ”の評。

いしかわうんちょう

黒住教・・・1814＝ 熊谷の名工小林源太郎が誕生して15年後、江戸雑司が谷に生まれる。本名は安兵衛。

水野忠成老中1818＝ 4歳：

シボ 朴来日・1823＝ 9歳：

若くして江戸彫石川流の彫物師として名を挙げ、二十歳代で幕府御用勤めになり、苗字帯刀を許され、石川安兵衛源雲蝶を名乗るが、江戸での製作記録は確認出来ていない。

鼠小僧磔・・・1832＝18歳：

大塩平八郎乱1837＝23歳：平八郎の乱に触発され、越後の国学者生田万も飢餓に苦しむ民を救おうと蜂起するも敗れ、自刃。

蛮社の獄・・・1839＝25歳：源太郎が越後の都野神社彫物の仕用書を提出し、

勅進帳初演・1840＝26歳：都野神社本殿の完成に合わせて彫刻。

天保改革始・1841＝27歳：

天保改革弾圧1842＝28歳：「北越雪譜」を遺したことで著名な鈴木牧之が死去。

越後三条にある、日蓮の法孫日印が開いた庵を祖とする法華宗陣門流総本山の本成寺の檀家総代の金物商内山又蔵から、本堂欄間と納骨堂の彫刻を懇望されて、

阿部正弘首座1845＝31歳：熊谷に戻るも再び越後に赴こうとしていた*先輩彫工小林源太郎と、三国峠で出会い、そこで金剛力士の競作をし、ともに越後入り。源太郎が竣工まもない御島石部神社本殿拝殿に彫刻を完工させる間、本成寺とその塔頭寺院で妙技を振るい、鑿などの金物の町として知られた三条に滞在しながら、

・・・1847＝33歳：源太郎が沼垂の白山神社神殿彫刻を完工した年、本成寺本照院の門門の破風に「飛竜」を制作、

・・・1848＝34歳：源太郎が都野神社拝殿の彫刻をした年、栃尾郷織物の祖神を祀る貴渡神社に、ケヤキの一枚板で、「桑摘み」「蚕を飼う」「繭煮」「機織り」の4枚の障子を、向拝(正面階段上の張り出し屋根部)の上の手挟には、鳩と雀を、臺股には十二支シリーズが四面に彫っていて、いずれも生き生きとしている。

国定忠治磔・1850＝36歳：本成寺静明院の向拝「唐人と鯉」など、近郷に出掛けて制作するうち、酒井家に見込まれて婿養子に入り、

万次郎帰国・1852＝38歳：起工した西福寺開山堂に関わり始めた時、永林寺再建のために棟梁らと工具や金物を住職弁成と出会い、バクチ好きなどところを見透かされ、賭けに負けて、その本堂の彫刻を請け負うハメになり、

ペリー来航・1853＝39歳：長女なみが誕生。

開国開港・・・1854＝40歳：源太郎が代表作となる天昌寺の欄間を制作した年にも、塩沢宿で、それぞれが{薄荷屋}の大看板を制作。

安政大地震・1855＝41歳：源太郎が榛名神社の双竜門を完工させた年、長男儀平が誕生。以後13年、永林寺の欄間などを彫刻、

蕃書調所・・・1857＝43歳：*完成した開山堂には、入口の「仁王尊阿形」「吽形」、道元禪師の物語を彫りこんだいくつもの欄間ほか、多くの作品が豪華絢爛に展開、とくに、天井を飾る極彩色で立体的な透かし彫り「道元禪師猛虎調伏之図」によって、“越後日光”と言われるようになる。

五ヶ国条約・1858＝44歳：常安寺の秋葉三尺奥の院では、源太郎の「竜」と並んで、「烏天狗と牛若丸」を彫り、曹源寺の欄間などでも並んで制作したようだ。

安政の大獄・1859＝45歳：永林寺の欄間「梅に雀と山雀」、

桜田門外変・1860＝46歳：続いて、永林寺の欄間「鶏」「錦鶏」を彫り、真島家の襖「花鳥四季」を制作。

遣欧使節・・・1861＝47歳：静明院の欄間「葡萄」二間、西福寺の襖「富士越の竜」二枚、「牡丹に孔雀」四枚、竜谷寺欄間「唐獅子牡丹」「麟麟」、永林寺の欄間彫刻「小夜中山蛇身鳥」三部作と向拝の天井画「蛇身鳥物語」を制作。ともに越後に来た、先輩で良きライバルだった源太郎が、竜谷寺の欄間「鶴」「唐獅子牡丹」ほかの制作を最後に、62歳で死去。

生麦事件・・・1862＝48歳：源太郎と並んで制作してきた龍谷寺の欄間「葡萄と朝顔」、十二社の向拝を彫る。

8月18日政変・1863＝49歳：竣工間近の十二社の欄間「洒天童子の大江山の鬼退治」は、どういわけか未完成に終わる。

薩長同盟・・・1866＝52歳：内山家の「東方朔」、「子引き獅子」の置物を制作。

時期不明の、「天女」はじけ美しい欄間「孔雀」「竜」、'儲'かって'帰る'と対にされた「寝牛」「蛙」という翡翠の彫物なども含めて、永林寺の制作も終わり、塗り替えられた瑞祥庵金剛力士像など、多くの彫刻を各地に残したが、

明治維新・・・1868＝54歳：

戊辰戦争終・・・1869＝55歳：戊辰戦争の悲劇後、三条に戻り、医業の神様石動神社の向拝左右に彫った「竜」は、村民が安心して眠れるように、頭を逆向きにつけかえたという伝説を生んでいる。

初の日刊新聞1870＝56歳：真島家の十二神版木を彫っているが、婿入り当主の3代目亀蔵は、18年前永林寺弁成に出会った時の賭けで、弁成の代理に登場して負けた相手である。

廃藩置県・・・1871＝57歳：天宗寺の欄間「鶴と亀」「万歳師と童」、石動神社には、脇障子「神功皇后と武内宿禰」「加藤清正」、

学問のすすめ1872＝58歳：欄間「鶴(ぬえ)退治」ほか、さまざまな彫物をし、それぞれに逸話が残っている。

明治6年政変・1873＝59歳：

布教していた日印の牛がその地で動かなくなったことに始まる本成寺のため、内山家の「寝牛」を制作し、

初の民間工場1875＝61歳：それを原型に、本成寺の「大牛」を制作、18年後には焼失してしまうが、その名残を思わせる、

西南戦争・・・1877＝63歳：牛池の霊跡青蓮華院の欄間から外され盗まれるも、その後見つかった「牛」が要入院に安置されている。

大久保暗殺・1878＝64歳：永林寺の弁成が死去、

沖繩県編入・1879＝65歳：越後に招いてくれた恩人内山又蔵が死去。以後、3年かけて、堀井家の仏壇を制作、

・・・1880＝66歳：三条市の大火で、二の町に移転。

明治14年政変・1881＝67歳：永林寺へ再山し、「天の邪鬼」「唐獅子牡丹」を制作したらしいが、

岩倉具視没・1883＝69歳：没した。越後來訪の始まりたる本成寺脇の墓所に葬られ、位牌の安置されている蓮如院にはユーモラスな彫刻「柿の実を持つ猿」があって、近所の子らに可愛がられてきたようだ。

全く忘れられていたが、写真家木原尚「越後の名匠 石川雲蝶」を著して以降、各地から情報が寄せられるようになり、古美術品鑑定家の中島誠之助がNHKのテレビ番組「古寺巡礼」で新潟県を訪れた際、雲蝶作品を見て、感嘆のあまり「これは越後のミケランジェロだ」と叫んで、一気に、全国的に知名度が高まった。なお、小林源太郎は、熊谷の玉井村で、国宝歙喜院聖天堂の彫刻を手掛けたとされる石原吟八郎を継いだ2代目石原吟八に師事した初代小林源八を継いだ二代目で、熊谷源太郎とも呼ばれ、神社仏閣の彫刻に秀で、特に子持ちの竜や中国の物語による人物像を得意とした。